

平成 29 年度第 1 回岩手県大規模事業評価専門委員会

(開催日時) 平成 29 年 6 月 19 日 (月) 13 : 30 ~ 15 : 30

(開催場所) 岩手県庁 12 階 特別会議室

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

(1) 平成 29 年度専門委員会の開催スケジュール等について

(2) 大規模公共事業の再評価について

・ 閉伊川総合流域防災事業 < 諮問審議 >

・ 宮古西道路地域連携道路整備事業 (ネットワーク形成型) < 諮問審議 >

(3) その他

・ 現地調査行程 (案) について

4 閉 会

委員

佐々木幹夫専門委員長、加藤徹副専門委員長、宇佐美誠史委員、小山田サナエ委員、
越谷信委員、島田直明委員

1 開 会

[事務局から委員 8 名中 6 名の出席により会議が成立する旨の報告]

2 挨 拶

○竹澤評価課長 それでは、開会に当たりまして佐々木専門委員長からご挨拶をお願いいたします。

○佐々木専門委員長 座ったままで簡単に挨拶させていただきます。

今日は新しい年度の第 1 回目の委員会ということになります。今日は、議題はお手元の次第にありますように 3 つということになっております。その他を 3 番目にしております。最初の議題は、今年度の年間の審議スケジュールについてということでございます。

2 つ目の議題に 2 つの再評価事業がありまして、1 つ目は閉伊川の流域で、大雨に対して流域を安全にしていくにはどうすればいいかという河川事業の進め方ですけれども、それについての評価、再評価ということでございます。

2 つ目は西道路、これは昨年度の審議の中でも出てきていましたけれども、改めて今年の進めていく内容について審議していくということになっております。

この 2 つの再評価事業ですけれども、8 月までの審議で実質内容を終えていければと思っております。ということを考えれば、今日可能な限り、もし問題があるなら委員の皆さんから出していただければ順調に進んでいくのではないかなと思っております。時間は限られていますけれども、よろしく申し上げます。

○竹澤評価課長 ありがとうございます。議事に入ります前に資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、資料ナンバー1からナンバー6までとなっております。お手元の資料のご確認をお願いいたします。また、お手元の青いファイルに専門委員会に関する基礎資料として関連する条例等の資料を準備してございますので、必要に応じてご参照願います。

本日の審議内容でございますが、資料表紙の1にありますとおり、本年度のスケジュール、再評価諮問審議意見となっております。

それでは、議事の進行については、条例の規定によりまして、佐々木専門委員長をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

3 議 事

(1) 平成29年度専門委員会の開催スケジュール等について

○佐々木専門委員長 それでは、議事に沿って進めていきたいと思えます。

最初の議題は、平成29年度の専門委員会の開催スケジュールについてでございます。事務局のほうから説明をお願いします。

[資料No.1 説明]

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。いかがでしょうか、何かご意見、ご質問ありましたらお願いします。

「なし」の声

○佐々木専門委員長 よろしいでしょうか。では、皆さん了解したということで、このスケジュールで進めていきたいと思えます。ありがとうございます。

(2) 大規模公共事業の再評価について

・閉伊川総合流域防災事業<諮問審議>

○佐々木専門委員長 それでは、次の議題に入ります。次の議題は、2つ目の議題で大規模公共事業の再評価についてということで、1つ目が閉伊川総合流域防災事業です。

では、事務局のほうから説明をお願いします。

[資料No.2、No.3 説明]

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。いかがでしょうか、質問、ご意見、何かありましたらお願いします。

どうぞ。

○越谷委員 近内川のほうの上流部でまだこれから29年度、30年度、実施予定と書かれているところございますが、昨年度の台風10号のとき、この区間は何か特に被害とかはなかったのでしょうか。

○馬場河川海岸担当課長 昨年8月の台風10号におきましては、こちらが改修済みの近内川の写真ですけれども、翌日撮ったものになるのですが、痕跡からいうとちょうどブロック積みが一番高いところ、我々は天端と呼んでおりますが、ここに痕跡がありまして、ぎりぎり溢れなかったというところをごさいます、上流の未改修区間におきましても周りの農地とか家屋に被害が及ぶというところではなくてぎりぎり溢れなかったというところをごさいます。山口川につきましても同じような状況をごさいます。ぎりぎり溢れなかったということをごさいます。

○佐々木専門委員長 どうぞ。

○加藤副専門委員長 教えていただきたいのですが、これに関連して、痕跡、今ご説明いただきましたけれども、この近内川の整備は確率的に50分の1の確率で整備というご説明があったような感じがするのですが、この昨年の平成28年8月の台風10号のときの降雨量とかは過去のものに照らし合わると何年確率ぐらいに相当したのでしょうか。

○馬場河川海岸担当課長 まず初めに、近内川の河川改修の規模ですけれども、目標としては50年に1回なのですが、実際の改修につきましては早期に全体の区間で効果を発現するというので、若干ですね、河床は全部掘削しないのですけれども、少し河道の断面を残して整備を進めています。おおむね平成11年の洪水には対応するというような暫定断面で掘削をしているというところがあります。

それから、昨年8月の大雨につきましては、今日、確率の評価につきましては、データを持ってきておりませんので、次回ご説明したいと思えます。

○加藤副専門委員長 この断面で近内川、これは川幅は広げてあるのですか。

○馬場河川海岸担当課長 川幅は広げてあります。川底だけ少し高くしているような、暫定断面です。

○加藤副専門委員長 そうすると旧来の堤防があつて、引堤みたいな感じでよろしいですか。

○馬場河川海岸担当課長 はい、結構です。従来の川幅、イメージとしてはこういった小さい川幅だったものをここまで広く川幅を広げているということになります。

○加藤副専門委員長 ありがとうございます。それから、ついではすからもう一回、先ほどのご説明の中で、17ページのところでB/Cの数値が出てきておりますが、それで、これはこの地区の場合には、当初からなのですが、かなりB/Cが高い数値になっていますね。普通の事業ですと、こんなに高いB/Cというのはそんなに出てこないと思うのですが、このケースの場合には何か理由があつて、これだけ高い値になるのでしょうか。

○馬場河川海岸担当課長 河川改修の場合、かなり大きな数字が出る場合と1ちょっとぎりぎりの場合と両極端なときが多いのですが、こちらの河川の場合、宮古の市街地が一部この辺とか、この辺も市街地なのですが、ちょうどこの近内川とか山口川が溢れると地形的に、この写真でいくと左から右に地形の高低差が傾斜しているような形になっています。溢れると全部この市街地の方向に向かっていくというようなことがあります。また、溢れていくと閉伊川の堤防がこちら北側、左岸側のほうが整備されていますので、溢れた水がなかなか排水されないで市街地に溜まっていくような傾向がありますので、被害の額が大きく出るとかなというふうに考えています。

○加藤副専門委員長 ありがとうございます。いわゆる張りついている社会資本が大きいという解釈でよろしいですね。

○馬場河川海岸担当課長 はい。

○加藤副専門委員長 ありがとうございました。

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。去年の8月洪水については、閉伊川ではデータ、降雨量、出現確率出せるのですか。次回用意しますというふうに聞こえましたけれども。

○馬場河川海岸担当課長 閉伊川本川につきましては降雨あるいは本川のほうは水位の痕跡等もありますので、その辺から推計したものが出せると思います。

あとこちらの支川の山口川、近内川の確率につきましては、これは宮古の市町村の降雨の時間雨量のデータから確率が出せるかどうか検討してみたいと思います。

○佐々木専門委員長 水位のグラフがありましたね、あのグラフは閉伊川本川のものでしょうか。

○馬場河川海岸担当課長 ええ、本川の水位観測所として、場所が千徳水位観測所というところになりますので、ちょうど千徳駅というのが真ん中のちょっと下側に、JR山田線の駅があって、その付近の水位になります。

○佐々木専門委員長 横に線があったけども、計画高水位はないのですか、まだ設定されていないのでしょうか。

○馬場河川海岸担当課長 この付近では、まだ水位は設定していない区間ではあるのですが、こちらにお示ししているのが水防法に基づく水位周知河川に指定しております。水位周知河川というのは、住民の避難に寄与するデータとなっていて、ちょっと凡例が逆になっていますけれども、水位の一番上の茶色い線が氾濫危険水位ということで、この閉伊川の千徳の周辺の区間で一番溢れやすいところでは、この地点になると氾濫するおそれ

がありますということで、避難のためのリードタイムを取って、避難勧告となる目安となる水位があり、その下の赤の水位が避難判断水位ということで、避難判断や高齢者の避難開始の勧告の目安の水位というふうになっております。そういった水位をグラフに記載しております。

○佐々木専門委員長 そうすると、下流の方、結構短い時間で急激に水位は上がっている、ただそれだけなので、さっきの説明聞いていると、まだ計画断面の河床高、まだ河床を全部取っていませんよということで、河積については計画までいっていないですね。そうすると、水位が高くなったのは事実ですから、では、実際にこの計画どおりの河積になったときに、川の断面になったときに、この水位がどこまで高い水位なのかという予測できますか。

○馬場河川海岸担当課長 先ほど暫定掘削の断面で進めていると言ったのは支川の近内川のほうでございます。そして、閉伊川本川につきましては、水位の観測所はこちらの上流のほうでございますけれども、閉伊川本川につきましては堤防が整備されております、市街地部分につきましては。それから、特に河口に近いところにつきましては過去の津波対策で、津波に対応した堤防が整備されておまして、洪水の計画の水位よりも高い、過去の津波対応の堤防がございますので、堤防高には市街地の河口のほうでは余裕があったというところがございます。

○佐々木専門委員長 わかりました。ありがとうございました。そうすると、あの水位からすると小本川と関連した話ですけれども、去年の洪水の時に、小本川本川でいくと雨は10分の1程度、ただ被害があったところを見るとすごい雨が降っていたという話ですけれども、このさっきの水位から、閉伊川のほうが雨降っているような感じですか、そのあたりどうなのですか。

○馬場河川海岸担当課長 閉伊川につきましては、次回にデータをお持ちしたいと思います。小本川、岩泉町にあります大きな被害を受けた小本川におきましては大雨で溢れた洪水の流量の確率につきましては、およそ30年に1回の確率、30分の1くらいの確率というふうに評価しておまして、そちらに対応する改修計画を検討しております。

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。
どうぞ。

○小山田委員 一つ、近内川の奥のところでは区画整理事業が進んでいますけれども、あれは東日本大震災後、主に区画しているところではないかなと思うのですが、そうするとこの全体の計画の後からああいう大きな団地ができたということになると思うのですが、その計画に対する影響というものは特にはないと考えていいわけですか。

○馬場河川海岸担当課長 資料の17ページをご覧くださいと思います。17ページの

B/Cの表の下に関連するプロジェクトの状況とございまして、近内地区の土地区画整理事業は、平成元年から計画が始まっておりまして、東日本大震災津波が発生した頃は、全体の事業のうち、かなり進捗が進んでからというようなところでございます。現在事業も実施中なのですが、進捗率が90%ということで、かなり進んではおりますので、そういった宅地の流出増とか、そういったものとはこれまでどおり連携を図りながら対応していきたいというところでございます。

したがって、東日本大震災津波以降、引っ越しされてきている方が多くはなっているのですが、河川改修事業のほうには大きな手戻りとかということはないというところがございました。

○佐々木専門委員長 ほかにございますか。

はい、どうぞ。

○越谷委員 本体資料の15ページのほうの真ん中のあたりの事業費というところを教えてくださいなのですが、B/Cがかなり高い値、大きな数字の割には事業費のところを拝見しますと28年度が5,000万円ですか、29年度はゼロと、このゼロの意味がよくわからないので、教えてくださいなのですが、この辺の見込みというか、ある意味少ないのかなというのがちょっと不思議な感じがしてるんですが、教えてください。

○馬場河川海岸担当課長 県の河川改修事業の進め方としましては、近年で大きな洪水被害を受けたところ、それから資産が集中しているところ、それから関連事業があるというところを優先的に進めております。その中で、近年大きな被害を受けているところということで、16ページの社会経済情勢のところのイの本県の状況というところにも書いていますが、記憶に新しいところだと昨年8月、それから25年には7月、8月、9月、それから23年にも大きな洪水被害が発生しておりまして、事業を実施しなければならないところはたくさんあるのですが、優先順位といいますか、進めるところ、進められないところということで予算の張りつけを強弱をつけながら進めているところでございます。

昨年の予算が5,000万円となっておりますが、実際は当初はゼロだったのでございますが、国の経済対策の補正予算で年度の途中で5,000万円つけたというものでございまして、それを29年度にやるものの前倒しということで行っておりまして、実際の工事は今年やるということで、本年度の予算はゼロということにしております。今後は37年度の完成に向けて、他の事業との調整にもなりますが、完成に努めていきたいと思っております。

○佐々木専門委員長 ほかにございませんでしょうか。

はい、どうぞ。

○島田委員 二つ教えてくださいなのですが、1つは先ほど近内川だったかと思うのですが、掘削を幾らかしてあるので、昨年の台風のときはぎりぎり大丈夫だったというようなお話だったかと思うのですが、それが計画されて50分の1になるかどうかというのがあるのですが、もしそれで、変な言い方をすればうまくいっているのでは

あれば、そんなに工事をしなくてもいいのではないかなというふうにちょっと素人考えで思ったのですけれども、そこら辺どういうふうに、予算を減らすためには今ある事業でちょっとプラスアルファをするぐらいでもしかしたらよくなるのではないかなと素人考えでは思っておるのですが、この辺どうなのかということが1つ目。

あともう一つは、もしできればでよろしいのですけれども、環境配慮に関して一応2つほどやっているよということはここに書かれているのですけれども、できればどんな形でされているのかという、ちょっと写真か何かでお見せいただいたりとか、現地に行くときに見せていただいてもいいかと思うので、そこら辺ちょっと検討していただけないかと、写真か現地で説明していただく、いずれか用意していただけるとうれしいかなと思います。

○馬場河川海岸担当課長 まず、1つ目のご意見でございますけれども、今回は幸いにもというところがありますが、やはり上流部も家屋等が張りついているところもございますので、整備はしたいと思っておりますが、現地の状況を見ながら山づけの部分はそのままするとか、そういった工夫をしながら、できるだけ効率的に事業を進められるようにしていきたいと思っております。

それから、環境への配慮の方法につきましては写真、それか現地調査のスケジュールについては今日ご審議いただく予定となっておりますが、現地のほうでスケジュール、行程を組むことができれば現地でご説明したいと思っております。よろしく申し上げます。

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。

河道掘削は、魚に影響の少ない時期に改修工事をやってもらうとか、あるいは半分ずつやってもらうとか、生き物がそのまま継続するような形で、見ながらいろいろ工夫しなければいけないのは確かです。ありがとうございます。先ほど説明の中で整備したところは被害が出なかったというような説明がありましたけれども、その箇所の写真や図とかはありますか、すぐ出せますか。

○馬場河川海岸担当課長 昨年8月の降雨はピークが夜間だったものですから、ピークのときの写真は撮れないのですが、本県の沿岸部で大きな洪水が平成11年に各地でありまして、そのときにピークに近い時期に撮ったのが左上の写真で、こちらは改修済みの区間となったものでございまして、それからこちらの上の写真は近内川の上流で、その当時まだ改修してなかったところでの被害の出たときの写真があります。未改修の部分では、こういうふうな被害を受けたというのが、平成11年はピークが昼間でしたので、こういった写真が撮れたというものがございます。

○佐々木専門委員長 どうもありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。

はい。

○島田委員 先ほどの話で思いだしたんですけれども、たしか山口川でカニがとれるという話があって、地元の小学生が保全しているとかということで熱心に活動しているという

のを新聞記事で読んだのですけれども、カニ、モクズガニだったか、ちょっと記憶が定かではないのですけれども、山口川の方でそういう活動をされていらっしゃるという話を聞いたことが、新聞で読んだことがあったので、そこら辺の配慮とかはされていらっしゃるのかなど、先ほどの委員長の発言でちょっと思い出したので、もしそういうことがあるのであればそこら辺も教えていただけたら、すぐではなくてもいいので、教えていただけたら助かります

○馬場河川海岸担当課長 カニについては、情報は今ありませんので、調べて次回ご報告したいと思います。

山口川につきましては、過去はかなり、県内で最も水質の悪い川というふうには、30年くらい前とか、2、30年くらい前は言われていたところなのですが、地元の皆さんの熱心な活動のおかげで水質もよくなりまして、昨年10月には、新聞ではサクラマスも確認されたとか、そういった記事は我々も把握しておりますので、市民の皆さんのおかげで綺麗な川になったというところがあります。

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。

それでは、時間もあまり無くなりましたけれども、15ページのところから事業目的、進捗状況、社会経済情勢、ここまで何かありますか。

説明の中で、この事業が河川整備事業ではなく流域総合防災事業という名前をつけていることでしたけれども、河川整備事業に特定していないので、防災事業であればポンプの設置とか、いろいろやらなければいけないことがいっぱい出てきそうなのでは、終わることなく延々と続きそうなのでは、そのところの区切りはつけていますか。

○馬場河川海岸担当課長 事業名が総合流域防災事業という名前です、資料のほうにも（河川）と書いてあるのですが、事業名の大きなくくりは総合流域防災事業なのですが、その中に河川事業とか、砂防事業とか、また細かな分類がありまして、総合流域防災事業の大きなくくりの中の河川事業という位置づけになっております。ですので、名前はこういう事業なのですが、通常、河川事業と同じということにはなりません。

内水対策については、今は基本はそれぞれの支川の管理者が行うということになっていて、沢の処理とか、都市下水路の処理であればそれぞれの管理者が行うということになっております。

あとゲートの無人化についても検討しているというところですが、そこについてはまだ検討段階ですので、事業化を図るときにはどの事業で具体的に実施するのかというのは検討していきたいと思っております。この事業も含めてになるかと思いますが、具体化させるときにどの事業でやるかというものは検討していきたいと思っております。まず、今は残っている近内川上流と山口川の残っている区間の整備を進めたいと考えています。

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。

さっきの内水氾濫区域についてですが支川が本川に合流するところの内水被害区域、支

川から見れば内水なのですけれども、支川の水が本川に入るところの河口部が溢れたという現象にもとれるのですが、支川の上流から堤防を作っていますけれども、そういうふうにしていくと、そういうふうにしたから早く水が来たのだと、他の河川水系内の地区では住民からそのような意見が出たところもありますけれども、ここでも出る可能性もありますが、そのあたりはどういうふうに考えますか。

○馬場河川海岸担当課長 まず、役割分担をしながら県と市で連携して進めていかなければならないと思っていますので、それぞれポンプはどうする、ゲートのほうの対応はどうする、それから操作の連絡体制とか、そういったものも地元と連携を進めていかなければならないと思っていますので、それぞれ役割分担をしながら進めたいというふうには考えております。今のところ、地元からは本川のほうについては、市街地部分については特に無いのですが、上流のほうの農地の浸水とか、一部堤防が低いところについては地元要望もありますので、そういったところはそれぞれの地区において、それぞれの事業で対応していきたいと思っています。

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。

それでは、コスト縮減と代替案、それから総合評価についてですけれども、何かございませんでしょうか。

「なし」の声

○佐々木専門委員長 なければ、残事業のB/Cについて先ほど加藤先生から質問があって、事務局からの説明があったのでよろしいかと思えます。

それでは、この事業については今までの質疑では次回、昨年8月の豪雨がありましたけれども、それがどの程度の確率になっているのか、この河川整備が50分の1で進めているということですが、資料などを出せる範囲で次回出して頂くということにしましょう。それから、これは可能であればということで、山口川のところの生き物、生物、特にカニの生息状況について、これら資料があれば出してもらおうということにしたいと思えます。

以上で、ほかに何か資料、これについて欲しいというものはありますか。

「なし」の声

○佐々木専門委員長 なければ、それで説明してもらおうことにして、以上でよろしいでしょうか。

「はい」の声

○佐々木専門委員長 それでは、閉伊川の河川整備事業についてなのですけれども、事業名は総合流域防災事業ということで、これについての今日の審議は終わります。ありがと

うございました。

・宮古西道路地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型）＜諮問審議＞

○佐々木専門委員長 それでは、続きまして2つ目の審議案件です。2つ目は、宮古西道路地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型）、これの再評価の審議案件です。

では、事務局のほうから説明をお願いします。

〔資料No. 2、No. 4 説明〕

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。どうでしょう、ご意見、ご質問ございましたらお願いします。

はい、どうぞ。

○小山田委員 ちょっと関係ないのかもしれないですけども、スライドで、3枚目にありました現道が浸水しているところもありますけれども、例えば今回のこの道路ができて、ここを通らなくても市街地に行けるように、市街地を通らなくてもよくなるということだと思えるんですけども、この道路自体は残るわけですよね。それで、この道路自体は住民の皆さんの近場での生活用道路として残った場合に、この道路ってどうなるのだろうと、ちょっと関係ないかとは思うんですけども、気になりました。

○千葉整備担当課長 今回整備しているところで、一部道路が低いところがございまして、ここは内水によって冠水するというのはそのとおりでございますので、今回事業が進むことで、国道106号を通過される方は問題なくなるのですが、地元の生活用道路としては、そのままの状態です。

○小山田委員 これとは関係ないとは思ったのですが、見ていて気になったので、済みません。

○佐々木専門委員長 この今の今日の対象の道路ができた後は、管理はどこになるのですか、市になるのですか。

○千葉整備担当課長 管理というのは今の現道の分ですね。市になろうかと、詳細な協議まではしておりませんが、そういう方向で話を進めております。

○佐々木専門委員長 ということです。

○小山田委員 何ともどうしようもないというか、気の毒というか、そのまま道路は残るわけだと思って、その辺はどのように手当てするのだろうと、映像というか、写真を見て気になったので、関係ないかとは思いますが。

○佐々木専門委員長 交通量は大分減るから、ただ生活道路に関してはね。

○小山田委員 そうですね。

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

はい、どうぞ。

○越谷委員 スライドの4番のところで、今回の事業費が増えてしまった理由の一つに田鎖トンネルという言い方でよろしいですかね。

○千葉整備担当課長 田鎖トンネル。

○越谷委員 田鎖トンネルというところでの、もともと思っていたよりも石が堅牢でなくて、大変なことになったということなのですが、2つほどお聞きしたいのですが、1つはもともとお考えになっていたものに対してはどのぐらい、額は出ているのですけれども、割合的にという意味で何%増みたいなの、もし算定できるのであればですが、今すぐには無理なのではというけれども、ということが1つと。

もう1つよろしいですか、あともう1つは近くというか、全然違うかもしれませんが、東のほうに松山トンネルという少し短いトンネルの掘削をしておりますし、あと橋梁とかも少し下部工とか掘ったりいろいろしていると、地質が全然違うかもしれないので、的外れかもしれないのですけれども、もし同じような岩質なのだけれども、風化の度合いをここは厳しいぞということがあらかじめ予見できるようなチャンスがあったかどうか、ちょっと厳しいかもしれないのですが、岩質が場所、場所によってどんどん変わるので、そう簡単ではないとは思われますけれども、その辺の、掘った、松山トンネルは比較的近くで掘っているので、そのときのほうが事業が先に行われたようですので、その辺のご経験のある程度、結局は溢れてしまうのかもしれませんが、予見できなかったのかどうかのあたりで何かコメントがあれば教えていただきたいのですが。

○千葉整備担当課長 まず、1点目なのですが、田鎖トンネルの費用は当初金額から200%を超えてございます。

2点目の予見の話なのですが、トンネルを計画する際には当然地質の調査をしなければならぬため、坑口付近の鉛直のボーリングと、中央付近の2カ所程調査しております。そのほかに物理弾性波探査を実施し、その結果から、トンネル区間の地山や岩質状況を推定しておりました。ただ、ご指摘いただいたとおり、松山トンネルは、非常に土かぶりが薄い、強風化の花崗岩でございます。今回の田鎖トンネルも強風化の花崗岩でございます。松山トンネルのほうは、田鎖トンネルよりはメーター当たり単価は割高にはなっております。また、松山トンネルはほとんど土砂化しており、真砂土ということだったので、掘る行為が相当大変だったことから、補助工法も相当に投入したということでした。ご指摘のとおりであります。田鎖トンネルについても、事前に地山の調査を実施し

ておりまして、そちらの結果を基に設計を進めて、工事を発注したところでしたが、その後判明したということでございます。

○佐々木専門委員長 位置関係をちょっと説明してもらえますか、2つのトンネルの。

○千葉整備担当課長 松山トンネルがこの黒くなっているところの、ちょっとこの白い所といいますか、ここが松山トンネルで、延長は73メートルでございます。今回の田鎖トンネルはもうちょっと左側に行きまして、赤い部分の真ん中の白くなっているところ、これが田鎖トンネルで、延長は326メートルでございます。

○佐々木専門委員長 この間の距離は。

○千葉整備担当課長 (スライドにて説明) 松山トンネルが黒くなっているところで、延長は73メートルでございます。今回の田鎖トンネルはもうちょっと図の左側で、赤い部分の真ん中の白くなっているところ、これが田鎖トンネルで、延長は326メートルでございます。

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。何か資料とか、そういうものは必要なものはありますか、いいですか。

○越谷委員 もしよろしければ工事前の予想ですかね、ボーリングとP波速度か何かがちやんと描かれた図面があると思うので。もし比較のためにあれでしたら、松山トンネルは土かぶりも少なく、恐らく今のお話を伺うと柔らかかったみたいなので、その比較図があれば、お見せいただければと思います。

○佐々木専門委員長 松山トンネル。

○越谷委員 松山トンネルと田鎖トンネルの2つの施工前の予想ですね。

○佐々木専門委員長 予想……、地質図ですか。

○越谷委員 地質というか、そういった地質とか、物理量とか恐らくあるかと思っております。

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。ほかにございますか。
どうぞ。

○加藤副専門委員長 先ほど小山田委員のほうからご質問ありました3枚目のスライドになりますが、冠水状況ですね、これは先ほどの最初の案件の閉伊川の河川整備の中で、雨

水ポンプ場の整備がかなり進んでくれば今よりは解消されるのか、道路と河川の整備でそこを連携とれているのかどうかわかりませんが、その辺はどうなのでしょう。

○千葉整備担当課長 申しわけございません。ちょっと持ち合わせてございませんので、後ほど、次回ご説明致します。

○加藤副専門委員長 というのは、当案件と最初の河川整備の案件は、たまたま宮古市に関わる地区ですので、道路整備の問題、河川整備の問題と分けずに、この冠水状況のことについては、申し訳ありませんが再度河川整備側から補足説明をいただければと思います。

○竹澤評価課長 すみません今河川課を呼んでおりますので、戻りましたらわかる範囲でお答えをさせて頂きたいと思います。

○加藤副専門委員長 余計なことをお願いして申しわけありません。

○佐々木専門委員長 この写真はあれですか、雨が降って、なかなか水が引かないということで道路が冠水して、その状況が続いているということですか。道路の側溝は大体10分の1くらいの雨には対応しているんですね。

○加藤副専門委員長 下水道の雨水管渠だけで吐き切れなくなった場合にどういうふうに対応するのか…。

○佐々木専門委員長 通常の雨のときでも排水が悪くてこういう状況が続くのか、排水が悪いのであればさっきの内水氾濫に関連してくる可能性がある。その辺は少し河川課の方に次回説明してもらいましょう。

○加藤副専門委員長 後で結構ですので。

○佐々木専門委員長 次回にでも。

ほかにございませんでしょうか。

はい、どうぞ。

○島田委員 二つ。

1つは完全に素人目線からなのですからけれども、40億円でしたっけ、増額されましたが、それで、何と申しましょうかね、評価が、金額のところでは中評価bになっているところに関係するのかもしれないのですけれども、一般的な視点で見るとこれだけ増えたのに評価が真ん中ぐらいでいいのかなという、結局お金があるからbになったけれども、もしこれお金がなかったらもっと遅くなってしまおうとなると変わってくるのかなというふうにちょっと素人目で思いました。それはどうかではなくて、一応県民目線でもうちょっとお答えというか、教えていただけると嬉しい。

あともう一点は、環境配慮、先ほどのところでもお尋ねしたのですけれども、環境配慮、どういふことを具体的にやられているのか、写真とか、そういうもので現地になるのか、写真で教えていただけるのか、どちらでもよろしいのですけれども、何かそういう、あくまでやっている最中ですので、全部終わっているわけではないと思うのですけれども、今やっている対策などについていろいろお示ししていただくと助かります。

○千葉整備担当課長 すみません、先に2点目から説明いたします。

2点目は、まずカモシカ等について、立ち入り防止柵を（車両の通行の安全性にもつながるのですが）設置しまして、横断できる場所を限定しまして、そちらに誘導するような形、ボックスカルバートという函工が9カ所ぐらいございますので、そこを通過いただくような配慮をしています。

猛禽類につきましては、営巣状況を調査し、繁殖期等には大きな音が伴う工事を避けるような、ご指導をいただいておりますので、そのような配慮をしております。また、植物につきましては生育適地に移植をしているものもございます。こちらも次回に写真等の資料を準備したいと思います。

1点目の31ページ、事業計画の変更のbでございますが、事業計画自体の変更ではなくて、事業計画に至るまでの手法が変更になったもので、経済的な手法を選定しながら、及び平成30年までの供用ということも視野に入れながらの施工というふうに考えてございまして、そういった意味でbになるかなと考えてございます。

○佐々木専門委員長 よろしいでしょうか。

○宇佐美委員 去年も多分同じような話をしたような気がするのですけれども、去年のいつだったかな、忘れたけれども、中央分離帯の幅を変えるというやつで、それで事業費が10億円以上上がったということで、それで同じような形で、そうすると県民から見たときに微細なところとそうじゃないところとどこに線引きがあるのかなというところとところが結局よくわからないまま、ずっとこれからもこういうのがあるのだろうと思います。

○佐々木専門委員長 今回で全部だと思うんですが。

○千葉整備担当課長 補足させていただきます。判定基準というものがございまして、その中で事業計画の変更はあるが、その内容が大幅でないもの、それがbという扱いとなっており、大幅なもの例というのが施工期間とか事業区間の起終点が変わるとか、ルートがすっかり変わってしまうとかというようなもの、もしくは工事内容の大きな変更、例えば切土、盛土でできたものをトンネルとか橋梁といったものに変更するというものが大幅なもの例でございます。今回の変更はそれに該当しませんので、bという判断基準としております。

○竹澤評価課長 今の話は、この青のファイルの43ページの上段に記載してございます。

インデックスの5の4、青の43ページの上段に中項目の評価ということで記載してございます。

○佐々木専門委員長 よろしいでしょうか、何か資料の追加とか…

○島田委員 評価については問題ないと思うのですけれども、多分前回と同じような話になるのかもしれませんが、20%ぐらい増額になったものに対して、そういう項目はB/Cというところで評価されていらっしゃるかもしれないのですけれども、何か20%の増加というものに対してB/Cだけで評価していいのかなというのはよくわからない。それ本当に素人目から見て県民、そういう意味では完全に素人目なので、素人目からすると、そんなに金額が上がるのは、評価があまり変わってないのにいんですかねというふうにちょっと見られませんかという素朴な疑問です。

おっしゃっていることは、筋が通っていらっしゃると思うのですけれども、その評価ではないところでのお話の部分だと思うのですけれども、そういう部分で何かもやもやするなということなので、何かここで結論が出るものではないと思うのですけれども、一般県民としてはちょっともやもやするなと思って、ちょっと発言しました。

○加藤副専門委員長 河川担当課の人たちに大変申しわけありません。というのは、これの3枚目ですね、これ道路整備の関係で宮古市内の道路の現在の現道の冠水状況ですね、それで今回の路線変更した道路整備がなされた後は、このままの状態で見道はなるのかということで、道路建設課のほうでは多分このままの状態だということなのですが、先ほど閉伊川も同じ宮古市で、この道路整備も宮古市関連なものですから、たまたま関連するようなお話で、それで先ほど下水の雨水管渠からの雨水ポンプ場の整備、これからかなり整備されるとご説明いただきました。そうした場合には、そこはさっきの写真のような状況は改善されるのかどうかという質問をしたときに、道路建設課だけでは答えられないということだったので、申しわけありませんでした。

○馬場河川海岸担当課長 わかりました。ポンプの施設のところで、2つ写真がありまして、右下の新川町と書いてあるところに対応するポンプ場がこちらの新川町の雨水ポンプ場というところになりまして、こちらで対応が可能になるというふうに考えてございます。

それから、もう一つが根市というところが上流にありまして、もう少し上流になります。ポンプの施設はまだないのですが、堤防を整備したところがありまして、常に設置しているポンプの計画はないのですけれども、ポンプを持ってきて設置して排水できるような排水のピットというもの、升までは堤防を整備したときに整備しているところがありますので、そういった何かあるときの準備まではしているというところで、河川管理者としてはそこまでの準備はしているところはあります。

○加藤副専門委員長 その計画されている雨水ポンプが整備されれば、さっきの冠水状況はかなり軽減されるということですね。

○馬場河川海岸担当課長 新川町のところは対応ができます。根市のほうは、こちらのほうは常設のポンプはないのですが、水防活動がとれるような準備まではしているというところがあります。

○加藤副専門委員長 ありがとうございます。すみません。たまたま同じ箇所だったものからです。

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

去年ですかね、これ審議して、いいでしょうということになって、去年の時点でわかりかけてかたかもしれないけど、雨について15億円増えたというのは、これは昨年の大雨の後に生じたことなので、これはしょうがない。あと埋蔵文化財も少し気をつければよかったのかもしれないけれども、掘ってみないとわからないところもあるのでこれはこれでしょうがない。

全体として、説明が合理的であればいいのではないかなというふうに考えております。よろしくお願いします。

ほかにございませんでしょうか。

はい。

○宇佐美委員 今後の工事の見通しというのは。

○千葉整備担当課長 工事の発注につきましては、大ロットで工事を発注してございまして、(スライドにて)ここからここまでの工事につきましては1本で40億円ぐらいで発注してございます。先ほどの田鎖トンネルは4月27日に安全祈願祭を行って掘り出したところですが。また、閉伊川横断橋は、400メートルを超えるぐらいの橋梁であり、こちらの上部工(桁をかける工事)の発注は済んでございます。いずれにしましても全区間で、ほとんどの工事は発注してございますので、進捗率が67.5%なのですが、来年度供用に向け、事業を進めていきたいと思っております。

○佐々木専門委員長 よろしいでしょうか。ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。

「なし」の声

○佐々木専門委員長 よろしいですか。それでは、今回は先ほどのトンネルの件についての資料を出してもらうということで、資料について、加藤先生の質問に対して後で資料を出して説明してもらうというところでしたので、説明してもらうということにしたいと思っております。

ほかに、これについて資料に対して説明してもらいたいというのがありますか。なければ以上になりますが、よろしいでしょうか。

「なし」の声

○佐々木専門委員長 ありがとうございました。

それでは、この宮古西道路地域連携道路整備事業については、今日の審議はここで終了します。ありがとうございました。

(3) その他

・現地調査行程（案）について

○佐々木専門委員長 続きまして、その他の議題にまいります。

その他について、事務局のほうから説明をお願いします。

[資料No. 5、No. 6 説明]

○佐々木専門委員長 ありがとうございます。

はい。

○竹澤評価課長 現地調査の際には、先ほど島田委員さんのほうからお話のありました環境配慮の現地の確認、もしくはもしそれができない場合には写真等での説明もあわせて担当課の方では対応をお願いしたいと思います。

○佐々木専門委員長 今説明いただきましたこの最後のページになっていますけれども、45 ページの行程（案）、現地調査の行程（案）ですが、これで行ければいいと思いますけれども、いかがでしょうか、よろしいでしょうか。我々がここを見たいと言っても、ちゃんと予定どおり見て回れるかどうかちょっとわからないところがあるので、事務局のほうに全部任せますということによろしいですか。

「はい」の声

○佐々木専門委員長 では、この行程（案）でいきたいと思います。

あとはございませんか。

○政策推進室 佐藤主事 特にございませぬ。

○佐々木専門委員長 では、これで予定していた審議は全て終了いたします。

では、進行を事務局にお返しします。

○竹澤評価課長 長時間にわたりお疲れさまでございました。

4 閉 会

〔事務局から閉会宣告〕